第９回　県政運営評価戦略会議　会議録

１　日時　　平成２５年３月２１日（木）　１０：００～１１：３０
２　会場　　県庁１０階　大会議室
３　出席者　委員　　県

委員	県		
阿部　頼孝（敬称略、以下同じ）	島田	清	監察統括監
石田　和之	数藤	淳一	監察局長
井関　佳穂理	板東	克典	監察局次長
高畑　富士子	河野	功	評価検査課長
田村　耕一			
土佐　和恵			
橋本　延子			
浜口　伸一			
濱口　英代			
福島　明子			
森田　陽子			
森本　長生			

ほか

（会議次第）
１　開　会
２　議　事
　平成２５年度の県政運営評価戦略会議の運営について
３　報告
　(1)　徳島県総合計画審議会への提言を踏まえた対応について
　(2)　徳島県農林水産総合技術支援センター外部評価委員会への提言を踏まえた対応について
４　閉　会

（議事項目と概要）
１　監察統括監挨拶（概要は以下に掲げる）
２　本年度の運営状況の説明（資料１）
３　質疑（概要は以下に掲げる）
４　対応状況の報告（資料２、資料３）

■監察統括監挨拶

（監察統括監）

監察統括監でございます。よろしくお願いいたします。

本日は第９回の県政運営評価戦略会議を開催いたしましたところ、会長をはじめ、委員の皆様方には大変お忙しい中、ご出席を賜りましてありがとうございます。

また、戦略会議では昨年の７月と８月にかけて「いけるよ！徳島・行動計画」の基本目標７項目全てについて精力的にご協議をいただきましてありがとうございました。その成果を提言書として総合計画審議会に提出していただいております。

さらに昨年１１月には、徳島県立農林水産総合技術支援センターの外部評価委員会の運営評価につき評価をいただいて、これについても提言書を作成していただき、同委員会に提出していただきました。これら提言書をご提出いただいた後の、各セクションでの対応については後ほど事務局から説明、報告をさせていただくことになっています。

さて本日の戦略会議におきましては、次年である平成２５年度の戦略会議の更なる充実を図るため、振り返ってこの１年間の戦略会議の運営について問題点等を更に評価、ご議論いただくという趣向になっておりますので、先生方の忌憚のないご意見ご提言をいただきますれば誠に幸甚であります。よろしくお願いをいたします。

■質疑

（会長）

それでは続きまして私から見直し案の説明をしたいと思います。資料は先ほど事務局から説明があった資料１をご覧ください。

この議論の進め方なのですが、まず２５年度の県政運営評価戦略会議の施策評価についての見直し案が１ページから３ページまでございます。四角い括弧で囲っているのが５項目あり、その５項目が３ページまでです。４ページ目に「とくしま目安箱」の採択についての見直し案と、評価機関の運営評価についての見直し案があります。トータルで７つ、見直し案があるのですけれども、この７つを一つずつ私が簡単に説明させていただきますので、それぞれ皆さんのご意見を頂戴したいと思っております。時間は１１時１５分くらいを目途にと思っておりますのでそちらもよろしくお願い申し上げます。

それでは早速、説明させていただきます。まず資料１の１ページの下にある「①県政運営評価戦略会議の審議の進め方について」です。今までプレゼンが各部局からあったのですけれども、この時間が長く、なかなか委員の質問等に時間が取れなかったということから、主要部局からのパワーポイントを使ってのプレゼンは見送り、審議時間をより長く確保し、各部局からの意見もこれまで以上に聴くことができるようにしてはどうかというのが私の案です。これにつきまして皆さんのご意見を伺っていきたいと思います。Ａ委員、いかがでしょうか。

（Ａ委員）

平成２４年度では主要部局からのプレゼンは、ある意味を持っていたと思うのです。特

に、この評価そのものが初めての取組であったということ、それから行動計画に従ってそれぞれの担当部局がこういう活動をやっていますよということ、それから副部長あたりが実際の実働部隊ですので、その方にプレゼンをやっていただくことは非常に効果があったと思います。ですが、どちらかといえば、プレゼン合戦になってしまいまして、いかにうちの部局にはパワーポイントに習熟している者がいるかということになり、これは若い人にかなり負担をかけたのではないかなという節もあります。

ですから、それを踏まえてという形で、私の意見としてはこれに加えて、事務局からすると「これだけは言っておきたいな」と、聞かれたら言うのではなくて「実は、こんなことを目玉でやっているのです」という話をレジュメ１、２枚にまとめていただければと思います。というのは、ご承知のようにどの委員会でも委員さんが非常にご多忙ですので、十分に勉強されて来られている方もおられるし、たまたまそういう余裕がなかったという方もおられて、エンジンがかかるのに少し時間がかかります。そういった意味も含めまして担当課にペーパーで、どの程度かはまた今度お考えをいただくにしても、最初になんらかのお話をしていただいて、それを叩き台とするというのはいかがかと思います。以上です。

（会長）

ありがとうございます。私も２年間このプレゼンを拝見して、見るよりは聞いた方がわかりやすいということがありましたので、時間との兼ね合いに非常に悩んだところです。２４年度でその部局の概略の説明を聞いておりますので、２５年度については今、A委員がおっしゃったような方法でいいのかなと思っているところです。他にご意見ございますでしょうか。

（B委員）

事前に資料を送っていただいて、最近はそのパワーポイントの資料をきれいにカラーコピーまでしていただくので、宿題を真面目にやった場合 、さっと見てある程度わかる感じはします。それでこちらに来て同じものを同じように読んでいただくというのはかなり時間の重複があるのだろうなと思います。例えば、ある程度見たという前提でA委員がおっしゃるように５分くらいなど時間を決めて要点をまとめていただくのが思い出しもでき、質問の時間も多く取れるのではないかと思います。

（会長）

はい、わかりました。よろしいでしょうか。そうしましたら２３年度、２４年度のような２０分、３０分もというプレゼンは今回は見送って、簡単なものを、言いたいことを少し言っていただくというような方向で進めていただくということでよろしいでしょうか。

それでは続きまして、次のページをお開けください。「②施策・事業の評価方法等について」です。まずは「評価項目について」ですが、先ほど事務局から説明がありましたように「①取組内容」、「②課題の整理」、「③今後の取組方針」とあります。「②課題の

整理」というのは、的確に把握しているかどうかというのがなかなか難しいところがあり、客観的な評価を考えると、２項目にしてはと思うのですが、Ｃ委員、いかがでしょうか。

（Ｃ委員）
　この評価の仕方自体に、どう評価していいかわからないところもあったのですが、課題の整理につきましては、課題はもちろん整理をしていただいての今後の取組だと思いますので、課題の整理のところの評価は必要がないかと思います。会長案のとおりで異論はございません。

（会長）
　何か他にございませんでしょうか。そうしましたら、課題の整理をなくすという意味ではなく、課題を整理してそれを踏まえた上での取組方針であるということで２項目という方向で検討していただこうと思います。
　続きまして、３つ目の「採点の明確化について」です。２４年度は会議では評価項目ごとの点数と総合点を示していませんでした。ＡＢＣＤの評価を皆さんにはお示ししたわけですけれども、私の案としては、評価結果だけではなく、評価の項目ごとの点数も示す方がわかりやすく、妥当ではないかなという気がしまして、案としています。これも実際に評価私案を作成していただいた委員さんに伺うのが良いのかなと思いますので、Ｄ委員からご意見頂戴したらと思います。

（Ｄ委員）
　はい、異論はありません。

（会長）
　評価したその項目ごととその総合点を出した方が良いという私の案でよろしいですか。

（Ｄ委員）
　はい。

（会長）
　どうですか。Ａ委員さん。

（Ａ委員）
　これでいいと思います。

（会長）
　それでは、会議の場で、ＡＢＣＤだけではなく、評価項目ごとの点数と総合点を示すと、その方が議論する場合もわかりやすいのではないかということでその方向でお願いしたい

と思います。
　続きまして３ページ目の「評価について」ですけれども、評価はＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄという区分で２４年度は行ってまいりました。Ｃ評価とＤ評価は同じ５点以下なのですが、どうしてもＡＢＣＤとなるとＤの方が下のように受け取られてしまいました。ＣとＤは点数が同じなのだけれども、新たな取組が必要なのか、見直しが必要なのかという違いでしたので、委員の皆さん方もわかりにくかったのではないかと思います。
　そこで、ＤをなくしてＡＢＣという区分にして、Ｃの場合には評価シートに意見を加えるという形で、「追加した方が良い」、「見直した方が良い」などと文言で付け加えるというのが私の案なのですけれどもいかがでしょうか、何かご意見ございませんでしょうか。Ｄ委員。

（Ｄ委員）
　評価をやっている立場としてこの会議に呼ばれた際に「３段階では不十分」ということを言われた記憶がございます。また、今年度、評価を４段階に変更したというような経緯がございます。

（会長）
　ＡＢＣＤという４段階評価ですね。２４年度の評価のようなＡＢＣＤではなく。

（Ｄ委員）
　「４段階でやるんだから」ということを言われて、４つの区分の仕方はここと同じではないのですけれども、その時の強いメッセージとして受け取ったのは「３では不十分である」、「わかりにくすぎる」ということであったかと思います。

（会長）
　今回のＣとＤがわかりにくいということで、普通ならＡＢＣＤＥＦＧと上からいきますけれども、２４年度のＣ・Ｄについては上下がなかったので、そこをまずクリアにしたいと思ったのです。

（Ｂ委員）
　普通に考えたらＡＢＣＤだとＤが低い、それでいいと思います。なので、その数字で言うならＣは５点以下でＤは３点以下、２点以下など、それでＤというのは「考え直した方が良いんじゃない」というような事業としてしまえば、見直しが必要と取組の追加というのだったら取組の追加の方が評価が高い感じがするのですよね。Ｄというのは、はっきり言って「もうやめてもいいんじゃない」、「やる必要はあんまりないんじゃない」という評価として、その代わり点数でいえば２点なのか１点なのか０点なのか、また３点以上は「合格ラインだけれどもＤがついたらやめたら」というくらいクリアにした方が良いと思います。Ｃ評価にして追加を文章で付けるというのはせっかく点数制にしているのに、何

か戦後のゆとり教育のような曖昧さが後で禍根を生むような気がします。４段階にして、はっきりした方が良いと思います。

（会長）
他にご意見ございませんでしょうか。

（Ａ委員）
２４年度の評価の区分で、実はＣとＤが５点以下で、Ｃが取組の見直しが必要で、Ｄが取組の追加が必要なものということが必ずしも委員の間で共通理解があったのかという、例えば、私が大学でおりまして入試のときに内申書を見ると、ＡＢＣＤとなっていて明らかにランク付けなのです。それでＤというのは、高等学校側はほとんど付けてきません。Ｄをつけていると本当に、これは「考え直した方が良いよ」と、場合によっては「もうやめてもいいんじゃないの」というような話なので、そっちの方だったら話がもっとすっきりしたと思うのです。おそらく、Ｄ委員のときに議論がいろいろ出たのは、「良い評価のところは問題ないのだ」と、その「Ｃ・Ｄのところで、具体的にどこがだめなのでどういうふうに改善したら、そのことが必要なのですよ」という、そのある程度の処方箋というか、そういう意見があったのではないかというように記憶しています。

（会長）
本来の私の意図はそのＣとＤを我々委員が充分認識できていたのか、同じ点数なのにＣとＤというのは非常にわかりにくいと思いますので、Ａ委員、Ｂ委員がおっしゃったようにＡＢＣＤで４段階でいいと思うのですけれども、なじむように上からＡＢＣＤとして、そのＤにいたってはまさにどうしましょうということになるのだと思います。点数を１０点から０点ですからどの辺りで切るかというのは来年に向けて、同じ５点でＣ・Ｄということはなくしていただきまして、もっと点数で明確にしていただくという方向でいかがでしょうか。
それでは続きまして、３ページの下の「ｂ その他（評価の視点）」です。まず再掲事業の評価なのですけれども、２４年度は評価がその事業がいくつかの基本目標にまたがっているケースがありまして、主たる事業の評価に合わせるようにいたしました。これもいろいろ議論があったところなのですけれども、「再掲でも事業の目的が違うから評価が異なってもいいんじゃないか」というような説明もありました。ボリュームのある資料ですから、きちんと再掲と書いていただくのもそうですけれども、わかりにくくなることもあります。この辺りをどのように整合性を持たせるのか、主たる事業に合わせるという２４年度のやり方か、目的が違うから違っていてもいいのではないかというようなことを議論していただきたいと思います。私は目的が違うのだから違っていてもいいのかなという気がしているところなのですけれども、どうでしょうか。Ｅ委員、お願いします。

（Ｅ委員）

私も昨年のこの会議の中で、あるテーマでは「いいよ」と言って、同じテーマが出て「これはだめだ」という意見を述べたように思います。その時の雰囲気、あるいは視点を変えることによって、二通りの見方がある事業が絶対出てくると思います。それを「この前言ったじゃないか」と押さえ込まれると、県民目線ではないのではないかと。県民の意見の代弁者という立場とすればそのような曖昧な意見をこの場で申し上げることが良いのかどうかわかりませんけれど、出てきても当然なのかなという気がしますので、会長がおっしゃったように寛大に捉えていただく方が我々も発言しやすいと思います。

（会長）

再掲事業でも、その目的が異なるので評価が違うということも仕方がないということでよろしゅうございますでしょうか。

Ｅ委員がおっしゃったように、とにかくボリュームがあり、なかなか全ては覚えられないのです。目的が違うので評価が異なっても仕方がないという方向でお願いしたいと思います。

次の２点目、「推進する」、「促進する」などの表現で数値目標が定められていない主要事業の評価なのですけれども、数値目標がないものというのは推進しているのだったら「してます」と言われれば「そうなのか」となり、「してません」と自ら言うことはあまりありません。「促進してますよ」と言われたら「そうなのか」となり、難しいのですが、私の案としては、評価シートに取組内容を記載する場合に、この事業というのが具体的にどんな状況を目指しているのか、また現状はどこまで進んでいるのかということを、記載していただけたら良いのではないかというものです。これにつきましてはよろしいでしょうか。わかりやすい方が良いと思いますので、数値目標がなくても、こんな状況でここまで進んでいて、こうなっているということを記載していただくという方向で進めていただきたいと思います。

次に、４ページ目の「とくしま目安箱」の件です。これも先ほど事務局から説明がありましたけれども、県民からの建設的な意見・提言を行動計画７つの基本目標ごとに関連するものを選んで、優れた意見・提言として採択をしてきました。ところが、今回はないというようなケースがあったり、たくさんあるようなケースもあったりしたので、全体を見て採択した方が良いのではないかと思った次第です。また、先ほど説明がありましたように、来年、ゼロ予算事業で「とくしま目安箱」優秀提言表彰事業という事業を新たに始められるようです。この戦略会議で「最優秀提言賞」「優秀賞」を選定するということになっておるようですので、私の案としましては、事務局が課題としていることも踏まえて、「とくしま目安箱」全体の中から一括して優れた提言を採択する方が、より具体的な施策に結びつくのではないかなと思っているのですけれども、これについてはいかがでしょうか。できるだけ実現可能な提言を採択していくということを踏まえて、広く全体の中から選んでいくという方向でお願いしたいと思います。

４ページの最後、「評価機関の運営評価について」ですけれども、今年は「農林水産総合技術支援センター外部評価委員会」の運営評価を実施いたしました。２４年度は２３年

度と方法を少し変えており、事務局からの説明にあったような方法で実施いたしましたけれども、特に問題はなかったのかなというところですので、来年度も同じような方法を基本として進めていっていいのではないかというのが私の案です。これに関しても、こんな点が足りないのではないか、プラスした方が良いというようなことがございましたらご意見を頂戴したいのですけれども、ございませんでしょうか。Ｆ委員。

（Ｆ委員）
　実際、ここの技術支援センターに行ってないのです。見てもないのに評価は難しいです。なので、この外部評価の件については、県庁でやるのも大事ですけど現地でやった方がより良いのではないかと思います。

（会長）
　実際に現地を訪ねるということですね。来年度に向けてはそれも検討していただくということで、県庁内でしたことについては去年のような方法でいいでしょうか。

（評価検査課長）
　今回は農林水産総合技術支援センターの外部評価委員会の運営評価をしたわけですけれども、農林水産総合技術支援センターの評価委員の方につきましては、現地へ行って、例えば、ホウレンソウの産地を見たり、今度新たに建設された技術支援センターに行ったりして、評価をされていると思います。
　しかし、それを評価する立場の我々が現場へ行くことが必要なのかどうかというのはご検討いただければと思います。私どもはその運営を評価する場でありますので、私どもが現場へ行ってということまで必要なのか、ご検討いただけたらと思います。

（会長）
　はい、ありがとうございました。今回は農林水産総合技術支援センターということで現地もということだと思うのですけれども、一昨年のような南部、西部の評価機関であればその評価機関を評価するということになり、状況によるのかなと思ったところです。Ｇ委員。

（Ｇ委員）
　私も前に一度、総合支援の評価委員をさせていただきました。そのときに現地研修もしました。平坦の方はかなり知っておりましたが、三好などの山間部、中間山間部も研修し、「なるほど徳島県もこういう農業をやっているのだな、厳しいのだな」ということを現実に痛感いたしました。それであれば、やはり現場の研修も必要なのではないかな、その評価も大事ではないかなと思います。

（会長）

はい、ありがとうございます。Ａ委員。

（Ａ委員）
農林水産総合技術支援センターの評価であれば当然マストだと思います。現場主義というのはそうでしょうから。ですが、我々の会議の課題というのは外部評価委員会の運営評価なのですよね。そこに微妙なニュアンスの違いがあると思うのです。だから、その辺りは、今後いろいろな場合が考えられるでしょうから、そのようなご意見があったというくらいのことでいいのではないでしょうか。

（会長）
そうですね。評価委員会を評価するのですが、今回は支援センターだったので、見ないよりは見ている方がよりわかりやすいでしょうし、そういったものではない評価機関もあります。そのような意見があったということで、ケースバイケースでいろいろ考えていっていただきたいと思います。

（Ａ委員）
余談になりますが、道の駅日和佐、道の駅と言っても、戦艦大和みたいな、ものすごく大きい建物で、１回そういうものを見ていると、やはり「ああ、なるほどな」ということがよくわかります。

（Ｆ委員）
水泳に例えたら、泳げないのに水泳の解説をしているみたいなもので、やはりこの件に関しましては最低限度見ておかないといけないと思います。他の評価の場合はまた別ですけど、この場合だけです。少し興味本位なところもあるのですけれども。

（会長）
はい、ありがとうございました。見ないよりは見た方がよくわかりますし、どこの評価機関を評価するかによっても違ってくると思いますので、そのようなご意見が出たということでお願いしたいと思います。
ではここで、その評価機関の運営評価については２５年度も２４年度を基本として方法を見直していくということでよろしゅうございますでしょうか。それでは、この私案については議論いただきましたので、このくらいでいいかと思います。
今日の皆さんの意見を踏まえて事務局で整理をして見直し案として取りまとめたいと考えておりますので、その上で来年度の運営に反映させていただきたいと思っております。どうもありがとうございました。
続きまして、次第の４の報告についてでございます。昨年１２月に徳島県総合計画審議会への提言を行いました。それを踏まえまして総合計画審議会よりその対応について回答がありましたので、まず事務局より説明をお願い申し上げます。

～【事務局より資料２、資料３の説明】～

（会長）
　はい、どうもありがとうございました。資料２、３に基づいて説明いただきました。それ以外に最後に事務局から何かありましたらお願いしたいのですけれどもございませんでしょうか。

（事務局）
　本日の会議録につきましては、事務局でとりまとめて会長にご確認いただいた上でホームページなどで公表させていただきたいと思っております。

（会長）
　はい、ありがとうございました。
　本日が今年度の最終の戦略会議になりますということと同時に、現在の委員での最後の戦略会議になりますので、皆さん方に一言お礼申し上げたいと思っております。
　戦略会議が発足しまして１年半、委員の皆さんに熱心にご議論いただきまして、会議の円滑な運営にご協力いただきましたことを心から感謝申し上げます。先ほど事務局から説明がありましたけれども、総合計画審議会等に提言して改善見直しにうまく繋がっているのではないかと思うところです。ＰＤＣＡサイクルが機能しているのではないかと思います。
　２３年度も２４年度もこの会議は、回数がたくさんあり、時間も長いため、私も最初の年は眠れないくらいだったのですけれども、皆さんのご協力で何らかの役割は果たせたのではないかなと思っているところです。いずれにしても現メンバーでの開催は今回が最後ですので、皆さん方へのお礼と皆様のご健康、ご発展を祈念したいと思います。どうもありがとうございました。